



中筋小学校だより

校訓 ～ 強い身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校
学校だより 12月号
令和4年11月30日発行
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>
☎ 75-0372

心温を上げる



ある日の朝の情報番組で、現代人の平熱は、60年ほど昔の人の平熱と比べると0.7度ほど低くなっているという話をされていました。その原因として考えられるのが、運動量の低下やエアコンの使用、ストレスの複雑化などだそうです。

体温が下がると、体の免疫力が低下すると言われています。人間は本来、体に侵入してきたウイルスや細菌を攻撃する力を備えています。その力を十分に発揮させるには、一定の温度が必要です。昔の人に比べて体温が下がっているということは、本来もっている免疫力も弱くなっているのかもしれませんが、今の新型コロナウイルスの流行と直接的なつながりは分かりませんが、体温を維持したり、上げたりする努力は、今のコロナ禍で自分を守る一つの方法と言えます。

さて、今、学校は「人権旬間」として「人権」について普段以上に考える期間です。毎年、学校全体でテーマを決めて、そのテーマに沿って全校で大きなうねりを作り出し、一人一人が大切にされる、居心地のよい学校づくりをさらに進めていきます。その中で児童会の取組があったり、人権に関わる授業を行い、保護者の方に参観いただいたりします。先日には、その始まりということで「人権集会」を行いました。今年のテーマは「ことば」です。「ことば」は、その使い方によって、人を幸せにしたり、命を奪ったりもします。この人権旬間には、児童会から各学級で、人を幸せにしたり、気持ちを温かくしたりする「ことば」を選び、それを率先して使っていこうという取組が提案されました。集会後には、早速どの学級でも、自分たちが特に大切にしたい「ことば」を話し合い、選んで、取組が始まりました。

私も集会の中で、人間の各部位の使い方に絡めながら「ことば」に関わる話をしました。

- 「口」は、人をはげますことばや感謝のことばを言うために使おう。
 - 「目」は、人のよいところを見るために使おう。
 - 「耳」は、人のことばを最後まで聴いてあげるために使おう。
 - 「手足」は、人を助けるために使おう。
 - 「心」は、人の痛みがわかるために使おう。
- そして、できるようになってほしいこと「きもちのよい ことば が使えること」



といった内容です。

前段でお話した現代人の体温が昔に比べ低くなっているということですが、心の温度すなわち「心温」までも下げることは許されません。常に人を思いやることや優しいことばを使うことを心がけ、自分自身はもちろん人の「心温」もいつも高い状態に保ち、誰もが幸せに生きることが出来る世の中にしていかなければなりません。「心温」を高く保つことは、自分の周りで起こる人権が守られない状況に気付き、正義を貫こうとする勇気や強さ、つまり「心の免疫力」の向上にもつながります。未来の日本を担う子どもたちの「心温」を下げないことを、まずは学校でしっかりと取り組んでいきたいと思えます。ご家庭でも“人権”について考えたり話し合ったりする機会を持っていただくようお願いいたします。 ※「心温」は私の造語です。

明日から12月です。残り1ヶ月で令和4年も終わります。月日が経つのが本当に早く感じます。子どもたちにとっては、2学期のまとめを行う大事な12月です。2学期の間に成長したことやできるようになったこと、もう少し頑張る必要があることを整理しながら、よりよいまとめを行い、しっかりと3学期につないでいけるよう職員一同最後まで気を抜かずに、全力で取り組んで参ります。12月も保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



校長 亀井 敬介 教職員一同